松江市共同募金委員会助成事業

高齢者の元気+子育ち支援　高齢者のためのコミュニケーション講座

【いずみこんこんわくわく座】

実施日と会場

平成２６年６月２４日　火　松江市宍道町:来待公民館
２５日　水　松江市浜乃木:乃木公民館
２６日　木　松江市玉湯町:玉湯公民館

講師

ＮＰＯ法人　あそび環境 Museum アフタフ・バーバン
千葉知江子さん　**金子ざん**さん

・企画主旨

「ＮＰＯ法人　ほっと・すぺーす２１」の主事業である、子どものための子どもの電話「もしもしにゃんこ🐾」は８年を経過し年間約１０００本から１５００本のアクセスが県内の子どもたちからあります。

この電話の内容をみていると、コミュニケーション力の低下からくる問題に発していることが伺えることに気づきました。低下しているなら高めていく手立てはないか、と模索し、コミュニケーション力をつける講座をしています。

高齢者講座「いずみこんこんわくわく座」では、まず元気な力を発揮してもらい、子ども時代の楽しかったことを思い出しながら、子ども時代と今の子どもに思いを馳せてもらいたい、そして元気さや知恵を今の子どもの「地域の電話」として声かけをしてもう関わりをこれからしてほしいという願いをこめて企画しました。

いずみこんこん わくわく座」とは、

NPO 法人あそび環境 Museum アフタフ・バーバンの“高齢者対象表現活動プログラム講座”、高齢者が子ども時代等に体験した歌や遊びを思い出し楽しみながら自己表現しながら『自身の思い出そのものが宝であり、その宝が泉のように湧き出てくることで、自分自身が生き生きと過ごすことができる』ことを体感してほしいという講座です。

＜当日のようす＞

６０歳以上の募集、たくさんいらしてくださった方、７０代・８０代、そして９０代の方もいらっしゃいます。杖をついてきた方も車椅子の方もきてくださいました。ありがたいことです。そしてちょっとみんな何をするんだろう？と不安そうです。受付で幼い頃の名前や呼ばれたい名前をつけるのも、えっ、！という感じです。同時にちょっとなにか楽しそう・・と表情も！　さてはじまります。

千葉さんの「なぜこんな活動をしているか」、**「生きて来た、生きている、生きていく」**まさにあなたたちは宝だ、子どもたちにその知恵と力を・・という話から始まります。そしてそのことを実感してもらうワークショップがいよいよ始まりました。

初めは、梅雨らしい「雨降り」「雨」の歌から。千葉さんのギターは心に優しく、歌は懐かしく、安心感が会場に広がります。

そして、ひとりひとりの名前を千葉さんの歌に合わせ呼びます。ざんさんがその方の所にいき、握手をします。中

にはハグをしたりダンスをする方も・・・会場は一気に笑い声と歓声となごやかな空気になっていきます。

次は「みかんとりんご」。２つのチームにわかれ、それぞれの果物を回します。これはお試し、そして次こそ本番、後ろで回し、歌がとまったとこでもっている人を当てます。こんな単純なあそびですが、おかしさ満載。歌がとまったとたん、あー、よかったと手を膝に置く人、〇〇さんじゃない？と指指す人、あたったとたん両手を叩いてしまい、まだこひれから当ててもらうのに持っていない事かバレバレの人！講師の指摘にも「なんのこと？」ときょとんとされる表情がまた楽しく爆笑です。カメラマンもつい、回す手のしぐさと顔が面白く、回しているところを撮っていて、講師に「コラコラばれてしまうよ」といわれ、これにまたみんなが笑い、どんどん楽しさが膨らみます。

「回覧板回し」。スタッフ５―６人が回覧板になり、みんなのところをまわりハンコやサインをもらい次にいきます。途中雨が降ると手をかざしてもらい雨宿り。とても単純なあそびです。全員の参加者のようすもスタッフもわかり、お互いより安心さが増します。そしてなにより、このあそびにはスタッフになったものしか味わえない不思議な力がありました。なんだかとても優しいのです。雨宿りのときの感覚が。守られているようなずっと安心してここにいていいような不思議な気持ちです。私は人としての琴線にふれる無償の愛の感じすら受けました。若いスタッフの中には泣きだす人もいます。これはもしかして、高齢者のためとおもっていたのに、教えられ学んでいるのは私たち？たった３-４分のあそび、ワークショップに大きな力をもらった感じです。

「おぬしもわるじゃのう」、というタイトルのついたあそびは、折り紙の小判をじゃんけんで増減してグループの小判の数を競います。〇〇屋という、皆さんの大好きな時代劇にでてくる強欲な商人になったつもりで、たかが、じゃんけんなのにそれは大盛り上がり。子どもの頃もそうだったのでは？と彷彿してしまう顔、顔、顔。ほとんど全員とじゃんけんをします。小さいころ、最初はぐーなんていわなかったよね、そうだよ、すぐじゃんけんぽんだったよと、本気本気のじゃんけんの嵐です。そしてお宝を子どもの戦利品のように数え、相手チームの数に一喜一憂。まるで子ども時代そのままの顔です。

そのまま、そのチームで「花火」を即興で演じる花火大会。大輪の花火。しだれ花火。ナイヤガラの滝、花火につけられた名前も美しく？楽しい名前が。みんなの前で演じるようす、なんだか晴れがましい顔です。

最後は、お題にそって「子どもの頃のあそび」「いたずら」「お手伝い」「行事」などなどグループで演じます。

すいかに柿泥棒、お母さんのお手伝い、おまつりのようす、はないちもんめ、かくれんぼ etc・・出雲弁が飛び交い、子どもにもどった皆さん、熱演です。みているとそのまま小さい頃が浮かびそうです。たぶん皆さんの頭の中には、思い出のなかの家族、友だち、村のひと、たくさんの人が当時

のままで語りかけ、そしてともに動いているんでしょうね・・・、見ていると優しいキモチが沸いてきます。

大拍手の中、それぞれの発表が終わりました。元気さをどうぞ次の、次の世代へ、知恵と力をどうぞ子どもたちへ、講師のおわりの言葉にもお礼をこめい拍手に力が入りました。

　ほっと・すぺーす 21 の「子どもほっとライン」の話もさせていただきました。そして地域の電話の役目をしてくださいという話もさせてもらいました。生きて来た、生きている、いきていく、その力をどうぞ子どもにむけてください、元気に生きててください。それだけで子どもたちには力です。楽しく生きている、そんな人生をしていきたいとみんなが思えるように、どうぞこれからも元気にしていてくださいね。
　帰りのアンケートを受け取るとき、スタッフにはねぎらいの言葉が次次とかけられました。よかったよ、きてよかったよ、元気でおるけんね、あんたも元気でね、また逢おうや、次もくるけんね、ありがとうね、笑ったわ、こんなにわらったのひさしぶりだったわ、みんなも元気でたのしそうだったけん、負けられんわーー。
握手で別れをいいながら、笑顔で皆さん帰られました。

当日のようすが、松江マーブルテレビでながれ、山陰中央新報にも掲載されました。ご取材の２人も取材をしながらとてもいい笑顔をしていらしたのが印象的でした。

助成をしていただきました、松江市共同募金会の皆様、本当にありがとうございました。今回、一緒にやりませんかという申し出に心よく承諾していただいた、宍道公民館、乃木公民館、玉湯公民館に心からお礼を申し上げます。
特にご担当していただいた長瀬さん、大和さん、富永さん、ご尽力と当日の運営、本当にありがとうございました。
山田カメラマンもありがとうございました。
そして講師のおふたりと参加してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

参加者感想を別に載せています。どうぞそちらもご覧ください。